

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201916		
法人名	医療法人社団 醫光会		
事業所名	グループホーム のぞみ		
所在地	群馬県高崎市下佐野町752-1		
自己評価作成日	令和4年10月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

単独のグループホームとは違い、様々な施設を持つ組織の中のグループホームとして、そのメリットを生かし協力体制が整っています。また毎日明るく楽しく安心して暮らせるように、笑顔と笑い声が弾むホームを心がけています。毎日の日課としてラジオ体操・四肢体操を行い、季節の歌本も多く取り揃えて合唱する習慣としています。コロナウィルスにより外室イベントは行えませんが、毎月、室内イベントとし、体を動かしたり、料理をしたりして利用者様、参加型レクリエーションを行っております。また散歩コースにも恵まれており、天気の良い日はなるべく外気にふれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今日も1日ここに居てよかったと思ってもらえるように、重度化しているなかでも、毎日筋力低下のために体操や合唱をして、危険回避のために見守りを徹底したり、対策を講じたりながら、安全で健康で過ごせるよう支援している。外出傾向のある利用者や入浴を拒否をする利用者への対応においては、不穏にならないように無理強いせず、職員がコミュニケーションを図りながら、穏やかに過ごせるようにしている。あわせて、季節を感じることは大切と考え、庭先での花見や食事の他、外出傾向のあるひとには外の空気にあたることで気持ちの行き先を変えるような機会を作っている。また、運営に関しては、職員が2名で行事企画をすることで、職員同士が意見交換しながら、運営に関われるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義・役割を念頭に置いた事業所理念をもとに、地域との関連性を盛り込み、管理者と職員がその理念を共有して実践に繋げている	理念の実践にむけて取り組んでいるが、コロナ禍のため地域とのつながりが難しく、「自分らしい暮らし」に重点において、重度化しているなかで、今日も1日ここに居てよかったと思っただけのように、安全で健康で暮らせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、コロナ感染に伴い交流を閉ざしている状況です。感染状況をみながら徐々に交流の再開を目指しております。	感染が収束したら、隣接している介護付き有料老人ホームとともに、以前のように近隣の方との交流を図るイベントの開催を考えている。現在は、散歩やホーム前の庭で、近くにある幼稚園児から声がかかるなどの交流がある。	コロナ禍で、直接的な交流が困難なため、以前にも行っていた隣接施設との作品交換など、コロナ禍でもできる交流ができることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状では、コロナ感染を踏まえて、地域との交流を控えております。区長や民生委員の方々には、各月、イベントを行った時の写真を載せた、のぞみ便りを2カ月に1回、送らせていただいております。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、コロナ感染に伴い、施設での運営推進会議は実行されず、2カ月に1回、状況報告やお便りを、お送りしております。	運営推進会議の開催は中止しており、メンバーには中止の連絡とともに、運営状況報告・のぞみ便りを郵送しているが、意見の聴取にはいたっていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中止のお知らせと共に、状況報告と、のぞみ便りを、市長寿社会課の担当の方へ、送付しております。ケアマネジャーを通し、利用者様の区分変更等を、行っております。	市には、事故報告など必要な報告の他、運営推進会議の開催を中止しているため、状況報告を郵送している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い利用者様が数名利用されており、玄関の施錠は24時間行っております。また職員には、年2回開催される身体拘束の研修に参加し取り組んでおります。	転倒の危険がある利用者の見守りを徹底するため、常に職員がいるところに利用者に来てもらったり、利用者が執着しているものを別のものに変えたり、ベッドから床に布団を敷くのに変更したり、身体拘束をしない代替案を検討して支援している。年2回の研修は、法人本部が作成する資料をもとに、研修報告を提出する仕組みとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回開催の研修会において、高齢者虐待防止関連法について学び、事業所内での虐待防止に取り組んでおります。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連の研修が開催される際には参加し、学ぶ機会を持つように努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等がある場合は、個々に十分な説明を行い、家族の不安や疑問点がないか確認し、理解、納得頂けるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家人来訪時には、利用者もふくめ話し易い雰囲気づくりに努め、また玄関には苦情の受付箱を設け、電話やファックスでも受けれるよう、玄関に案内を掲示している。	意見箱の設置の他、事業所で必要なものなどについてこまめに連絡をとるなかで、家族からの意見を聴取している。コロナ禍で、基本午前中のガラス越しの面会を行っているが、家族の事情にあわせて柔軟に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している職員会議において意見交換や提案を話し合い、毎日の申し送り時にも話し合いをし、情報を共有して実践に勤め反映させている。	職員を大切に職員の意見を聞き対応しており、利用者のためになる物品購入(レクリエーション材料等)には即対応している。行事などは職員2名で担当することで、意見交換しながら業務をすすめる体制を作っており、あわせて、年2回の自己評価をもとにした面接が行われ、職員育成が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者や職員に対し気を配り、勤務しやすい環境作りに努めている。年に2回定期の面談を行い現状の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の定期的に行われている研修や法人外での研修の参加内容について報告書を提出し、参加できなかった職員用に研修資料を回覧している。また介護福祉士・介護支援専門員の資格取得を目指して勉強するよう指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状、コロナ過の為、交流の機会を行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との会話やコミュニケーションを通して困っていることや不安に感じている事、要望や希望をくみ取り傾聴して、信頼関係が築けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が来苑した際、希望や不安、要望などないか積極定期的に声掛けをし、信頼関係が築けるよう努めている。また来苑できない家族には電話をしてコミュニケーションを取り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の思い、状況等を把握してよく傾聴し、まず1番に必要としている支援を見極めて、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は同じ家族の一員との考えで共に過ごし学び支え合う関係を大切にしている。人生の先輩である事を尊重し、昔話や生活の知恵など教えてもらい、お互いに支え合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告したり、相談するとともに、家族が来苑時は本人と家族の潤滑油になるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過ですが、ガラス越しに面会が出来るようにしてます、安心安全に面会が出来るように努めています。	利用者から、自宅やお墓・小学校などについての話題があがり、そうした馴染みの場所について会話をし、表情が変わることを大切にしている。また、踊りをしていた方には宗家の写真をみせると、踊りの所作をするなど、継続した支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール内で利用者同士が関りが持てるようにテーブルの配置を考え、時々席替えをしたりして新たな関りが持てるように支援している。利用者同士の橋渡しができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた方などに対し、家族から様子を聞いたり、相談や支援に努めている。お会いできた時には声をかけ、最近の様子など伺って支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、本人の希望を聞いたり、行動や言動の中から本人の思いや意向を察し把握することに努めている。言葉による表現の難しい方には、毎日の生活の中で、ちょっとした異変の気づきを大切にしてい、見落とさないよう努めている。	言葉にできない方は、嫌なときには断るようになり手が出たり、うれしい時には表情やそうしたときに「だー」という発語から察して、判断している。利用者の話はさげざらないように最後まで聞くようにして、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から要望や意見を聞き、これまでの暮らし、生活環境の把握に努め、職員が寄り添い馴染めるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の情報の共有を密にし、利用者一人一人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と話し合い、要望や意見を聞き、現状に即した個別介護計画を作る。状態の変化に応じてその都度本人、家族の意向等を確認しながら現状に即した介護計画を作成している。	利用者の担当職員が、介護計画(案)を作成して、ケアマネージャーと他の職員の意見も踏まえて完成させている。モニタリングは、職員の意見を聞きながら利用者の状況を検証し行われている。	サービス内容をもとに支援をした記録が行われ、モニタリングや見直しにつながることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録と職員間の申し送りノートで日常の様子、ケアの実践・気づき等を職員間で情報を共有している。毎月のカンファレンス以外でも変化が生じた際にはその都度話し合い計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況判断により、通院介助、買い物支援等、必要に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過前は、幼稚園から来苑や訪問等を行っていた、傾聴ボランティア等も来苑があったが、今は感染リスクを考え、行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意見を尊重し適切な医療が受けられるよう支援している。かかりつけ医の定期的な往診も実施していて、医療が必要な時にはその都度臨機応変に対応している。	入居時に事業所の協力医の往診があることを伝え、変更している。往診以外の受診は、基本家族対応としているが、状態変化がわかる事業所が対応することで適切な医療支援につながっている。夜間や急変時には訪問看護に連絡をして、指示や処置対応が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	それぞれの職員が得た情報や気づきは全職員が共有し、訪問看護師に伝え相談し、家族に報告し適切な受診等が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケースワーカーや相談員とこまめな連絡をとり、情報交換や相談を行って、利用者にとってより良い医療が受けられるよう務めている。また普段から良い関係作りにも務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・家族と話し合いを行い、ホーム内で見取りを希望されるか事前に確認をし、また重度化してしまった際のホーム内での対応の仕方も双方理解する様に行っている。	入居時に、看取りを行うことを伝えている。医師の判断で状態説明が行われ、家族の意向にそって、訪問看護と連携をとり、看取りを行った実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や講演会に参加して、事故発生時のリスクや対応策を常に学び直し、未然に事故を防ぐようにしている。参加できなかった職員は参加した職員から学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルが作成され法人として、消防署立ち合いと自主訓練を含め年3回、昼夜・風水被害を想定して避難訓練を行っている。近隣の方々に協力を依頼している。	年2回避難訓練を行っている。火災発生時には、隣接する有料老人ホームへ避難することも視野に入れている。以前には近隣の方にも参加してもらい避難訓練を実施したこともあるが、コロナ禍で近隣住民が参加しての訓練ができず、協力体制が明確になっていない。	地域とのかかわりと深め、事業所を理解していただき、災害時には相互に協力しあう関係が構築されることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人の誇りやプライバシーを損ねない様個人の気持ちを大切に声掛けや対応に注意を払っている。個人情報の取扱いについても慎重に対応している。	人生の先輩として利用者への言葉遣いには注意をしており、利用者の話は最後まで聞くようにしている。呼称はさんづけで、遠くから呼ばないようにするなど、職員間で注意あっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話や表情、行動表現からのサインを読み取り、本人の意思や希望が気兼ねなく言える雰囲気づくり自己決定ができよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて本人の意見や、希望を尊重し希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分好みの衣類を選んでいただいたり、勧めたりしてお洒落が出来るように支援している。必要なものあれば家人に依頼して買ってもらったり、ヘアカットと一緒に髪を染めるなど本人の希望に合わせている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1度、手作りおやつを提供している、一緒に調理や盛り付けを行い、皆さんが参加出来るように務めている。	食材が届き、職員が調理してあたたかいものを提供している。食事の雰囲気を変えることが食欲へとつながると、お弁当を買ってきて包みをあける楽しみや、パンケーキに生クリームをぬるなど、たのしい場面づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回体重測定をし、栄養士の作成したバランスの取れて食事を提供している。食事や水分量を記録に残し一人一人に応じた健康管理を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の口腔状態に応じた口腔ケアを行っている。月に1度、歯科衛生士による口腔スクリーニングを行い、6カ月に1度、歯科往診で歯科検診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーを尊重し排泄表のチェックをしながら、排泄習慣やパターンを理解・把握した上で、個々に添った支援を行っている。	定時でトイレ誘導しており、それ以外にも、利用者のサインを見ながら誘導している。筋力低下のために毎日体操を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士による献立によってバランスの良い食事を摂ってはいるが、便秘はどうしても起こってしまう。水分量を把握し、便秘薬で調整をしながら、毎日運動をして腸の働きを助けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望のタイミングなどを考慮して、入浴を楽しんで頂いている。また、入浴剤や季節湯(ゆず湯)施行し香りや雰囲気も楽しんで頂けるように工夫している。	入浴は週2回はできるように、入浴のタイミングを図って促して、無理強いすることで不穏にならないように、入浴へとつなげている。「今日は草津温泉ですよ」と入浴剤を入れたり、入浴後の化粧水をしったりなど、気持ちよく入れるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり異なった生活習慣であったことを十分に把握したうえで、状況に応じ利用者の希望やペースを考慮しながら、休息や安眠が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬剤師が事業所に直接訪問し服薬の支援を行う、居宅療養管理指導が開始された。利用者が服薬している薬の目的や用法、用量、副作用など正しく服薬出来ているかを確認し、職員との連携を取りながら介護サービスの向上に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からの情報をも取り入れて、利用者一人一人の生活歴を理解し、毎日変化があつて楽しめる様に支援している。四季の変化が伝わるように苑内に飾る花や壁に飾る物を工夫したり、散歩や外出ドライブをしたりして気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過前は、月に1度、外出レクリエーションを行っていたが、現在はコロナ警戒レベルに合わせて、安全・安心を考慮してその都度、行っている。	コロナ禍で外出レクリエーションはできないが、外のベンチで日光浴をしたり、アイスを食べたり、花火をしたり、外気にあたる機会を作っている。また、初詣には地域の神社に密を避けて参拝する予定であり、季節を感じてもらえる努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したり使えるような支援はしていない。本人の希望している買い物などは、家族に伝えて買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人への電話や手紙を希望する時は、いつでもやり取りができるよう支援している。またお正月の年賀状は出来るだけ本人の字で書いて頂き、家人へ気持ちが伝わるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホール各所に季節の草花や利用者の作品を飾っている。利用者が居心地よく過ごせる様に配慮している。	共用空間は窓からの陽ざしが入り明るく、季節の飾りつけをしている。外の空気から季節を感じてもらうことは大切と考えており、感染対策にも考慮して換気に努めている。テレビの前には、ソファが置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにて気の合った利用者同士で談話したり、ソファに座ってテレビやビデオを観られるように配慮している。一人で居たい時は、居室で休めるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みのあるタンス、鏡台、家族の写真や利用者の作品、絵画、人形、時計、誕生日カード等を好きなように置いてあり、居心地よく過ごせ、個性ある居室づくりを工夫している。	入居時には安全で過ごせるなかでの持ち込みについて説明し、タンスや衣装ケースが置かれたり、テーブルで購読する新聞を読んだりしている。利用者の状況によっては、混乱を招かないように、あえて物を置かず職員で管理するなど、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部(廊下、食堂、浴室、トイレ等)で安全にそして自立した生活が送れる様な配慮を行い、問題があれば職員同士で話し合い改善している。		